

令和5年度研究計画書

令和5年 4月 26日

研究種類	富士山研究		
研究課題	富士山麓と周辺山地におけるニホンカモシカの保全生態学的研究		
研究代表者	中村圭太（自然環境・共生研究科）		
研究期間	令和3年度～令和5年度（3カ年）		
共同研究者	高田隼人（東京農工大学）井上英治（東邦大学） 安田泰輔（自然環境・共生研究科）	研究協力者	
	研究目的	研究目標	
	富士山麓およびその周辺山地に生息する大型草食獣の保全および管理をおこなうために必要な、各種の分布や個体群動態、遺伝特性、食性、栄養状態、行動圏、社会生態などの基礎情報を得て、カモシカの保全政策の指針を示すことを目的とする。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 富士山と周辺山地におけるカモシカとシカの分布および相対的個体数の解明 2. 富士山と周辺山地におけるカモシカの遺伝特性および栄養状態の解明 3. 富士山におけるカモシカの個体群生存性分析（PVA）による絶滅リスクの評価 4. 富士山高山帯におけるカモシカとシカの個体群動態および生活史の解明 5. カモシカにおける生息環境と個体群特性の関係の解明 	
全体の研究計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>分布および相対的個体数</u>：富士山周辺山地の6個体群を対象にカモシカとシカの糞塊調査を実施する。踏査距離に対する糞塊数から相対的個体数を評価する。 2. <u>遺伝特性・栄養状態</u>：・糞DNA分析：1.で採取した糞の表面から腸粘膜DNAを採取し、各個体群の遺伝的多様性および分化度を算出する。・栄養分析：1.および富士北麓、浅間山で採取した糞サンプルを対象に化学組成分析をおこない、粗たんぱく質含量（CP）および中性繊維含量（NDF）を算出する。 3. <u>カモシカの絶滅リスクの評価</u>：・個体群生存性分析（PVA）：1,2,4.で取得したカモシカの基礎情報を用いて絶滅リスクをシミュレーションにより評価する。 4. <u>カモシカとシカの個体群動態および生活史</u>（調査地：富士北麓高山帯）：・行動観察、カメラトラップ、捕獲によるGPS追跡を実施し、シカとカモシカの個体群密度・繁殖率・社会行動・活動リズム・生息地利用・行動圏のデータを収集する。・浅間山：富士山高山帯との比較のため、浅間山での行動観察調査、糞のサンプリングを実施し、栄養状態・個体群密度・繁殖率・行動圏・社会行動のデータを収集する。 5. <u>生息環境と個体群特性の関係</u>：・富士山高山帯、浅間山山地帯、浅間山高山草原の3個体群を対象に、食物供給量、食物の質（CP、NDF）、個体群密度、繁殖率、行動圏サイズの関係を解析する。 		
前年度研究計画及び研究成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 糞塊調査を完了（100%終了） 2. 糞サンプル採取を完了、遺伝分析と栄養分析を実施（80%終了） 3. 個体群生存性分析（PVA）を実施（30%終了） 4. 行動観察、カメラトラップ、捕獲によるGPS追跡を実施（80%終了） 5. 解析を実施（50%終了） 		
当該年度の実施内容	上記、全体の研究計画の2.～5.を実施。		
期待される研究成果	<ul style="list-style-type: none"> * 富士山および周辺山地のカモシカ個体群の絶滅の危険性を評価できる。 * カモシカの減少メカニズム、生活史、好適な生息環境を明らかにできる。 * シカの季節移動パターンや生息地利用、活動リズムなどの生活史を明らかにできる。 * 上記により、カモシカの保全政策を進める上で、どのような環境を維持もしくは創出する必要があるかを提言できる。また、シカの適切な管理手法を提言できる。 		

